

(町史編さんだより)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
中横田	上野 蓮太	男	圭一郎
西寒野	井上 心音	女	幸介
津志田	小松 勇惺	男	直也
下横田	川口 愛理	女	信一
白旗	本田 絢夢	女	文崇
田町	今林 達	男	佑太
緑	宇土 那佑	男	恵俊
豊内	本田 結人	男	恵太
津志田	本田 圭人	男	健一
糸田	小林 陽翔	男	

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
宇土市	下田 広明
岩下	松永のぞみ
熊本市	川上 健輔
田口	山下 紗季
船津	北野 翔大
嘉島町	境野しおり
御船町	上野 晶
田口	田上由香里
熊本市	加藤 桂一
中山	尾村 亜弥
熊本市	西本 健
吉田	益田 鈴鹿
津志田	一口 博世
熊本市	志垣明日香

※3月号に誤りがありましたので、お詫びして訂正し、再掲します。

夫	津志田 一口 博世
妻	熊本市 志垣明日香

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
西寒野	早崎 シメ	93	泉
南三箇	光本チエノ	88	良一
豊内	嶋津ユル子	97	敬明
早川	宇土ハル子	89	ハル子
仁田子	佐藤 清一	92	貴美枝
上早川	山本 せつ	97	タカ子
津志田	大友 隆	86	サチエ
有安	工藤扶美子	65	扶美子
府領	中村 強	85	公明
中横田	門添 増男	91	増男
横田	下田 敏子	91	敏子
白旗	井芹 静枝	88	敬一
中横田	田上 新一	92	敬文
中山	水上 修身	75	修身
豊内	嶋津小夜子	77	勇正
早川	楠原トミ子	63	義治
船津	山下 聡子	85	康彦
豊内	古庄 啓介	77	優

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,422	△5
女	6,075	△2
計	11,497	△7
世帯数	4,220	2

平成24年2月29日現在

牛馬に引かせて田畑を耕す犁(すき)。明治以降、熊本の犁は肥後犁と呼ばれ、全国にその名を知られています。犁は、犁先をはめる犁床の長さによって、長床犁(ちょうしょう)犁と短床犁に分けられます。

長床犁の代表は、重平衡です。龍野村上早川の小原の重平衡(戸籍名は伝蔵)が、隣の家から借りた犁を折ってしまい、おわびにこしらえた犁の性能が良くて評判となり、注文が相次ぎました。文久3(1863)年の出来事と伝えられています。重平衡の息子・順太郎は明治20(1887)年に滝川村(現御船町)に転居し、重平衡の製造販売に従事しました。重平衡は、初めは甲佐犁、その後は御船

昭和初期から全国的に販売展開した「日の本号」



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(42)～

日本一の犁「日の本号」

町史編集委員 佐藤 征子 (民俗)

犁と呼ばれていました。短床犁の代表は山鹿の③犁(まるこすき)です。②犁は、山鹿の金物商の大塚末次郎が従来の犁を改良し、明治35(1902)年に肥後④犁の特許を取りました。肥後⑤犁は非常に好評で、全国から注文が寄せられました。

した。長床犁は安定性に優れていますが、深耕には不向きで方向転換がやりづらいため、欠点があります。それに対して、短床犁は安定性があって深耕に適し、狭い耕地でも使いやすいため急速に普及していきました。

順太郎の息子・龍雄は短床犁が優勢となったので、重平衡犁を改良して旭犁を完成させました。大正13年には、旭犁は日本一の短床犁とみなされました。昭和3(1928)年に東洋社を創設し、旭犁の名称を「日の本号」と改め、販路は関東・東北地方へと全国的に拡大しました。東洋社は昭和12年に熊本市池田町へ移転し、昭和22年には二段耕犁を発明しました。

その後、東洋社は大阪府門真市に移転し、現在の社名は日立建機ティエラといっています。

毎月「愛読いただきました」町史編さんだより」は、今月号で連載を終了します。

▼お問い合わせ先
町社会教育課
☎096・234・2447

編集後記

小さかったころ、祖父の家に行けば、必ず祖父と相撲を取って遊んだものでした。大人に向かって全力で当たって体を合わせ、手加減をされたり遊びを入られたりして、人との触れ合い方を意識せずに学んだ気がします。

初市で開催された相撲大会。大多数の子どもたちが相撲の取り方を知らず、こっけいな動きに大いに沸いた会場。ぎこちない取り組みは親しみが湧くのと同時に、いささか不安な気持ちの影がさしました。

さまざまな体験学習を試みる乙女小まつやま塾が迎えた、平成23年度の閉校式。毎年参加している子どもたちの顔つきが一段とたくましく輝いて並び、頼もしい限り。小さいながらも、心と体で感じてはぐくんでいる生きる力が、瞳の奥の力強さに映し出されていました。(C)